

【解答】

問一 3

問二 5

問三 1・8

問四 天下

問五 統治の精神を得ることは、まだ天下を保って日が浅いから。

問六 1

【解説】

問一 「少」は「わかくして、わかきより」の意。「能」は肯定文では「よく」と読む可能の副詞。「妙」は、「うつくしい、幼い、若い、非常に精緻なさま、巧みなさま」などの意があり、ここでは「巧みなさま」の意。「尽」は、「すっかりなくなる、出し尽くす、頂点を極める、死ぬ、殺す」などの意があり、ここでは「極める」の意。多様な意味を持つ語は文脈に即応して訳す。

問二 傍線部「工曰」以下の職人の言葉を要約し、選択肢1と2はまづ外れる。「正」「邪」は善悪ではない。「不正」からは、木の芯が「まっすぐでない、中心からずれている」といった意味を推測する。木目も「邪」(曲がっている)、「遺箭不直」(矢をまっすぐ射ることはできない)とある。以上の点を含むものを選ぶ。選択肢4の「木目はよくても」が誤り。要素が複数ある場合は、それ

下の蕭瑀に語った。

【書き下し文】

貞観の初め、太宗蕭瑀に謂ひて曰く、朕少くして弓矢を好み、自ら謂へらく能く其の妙を尽くすと。近ごろ良弓十数を得、以て弓工に示す。工曰く、皆良材に非ざるなりと。朕其の故を問ふ。工曰く、木心正しからざれば、則ち脈理皆邪なり。弓剛勁なりと雖も、箭を遣ること直ならず。良弓に非ざるなりと。朕始めて悟る。朕弧矢を以て四方を定め、弓を用ゐること多し。而るに猶ほ其の理を得ず。況んや朕天下を有つの日、浅く、治を為すの意を得ること、固より未だ弓に及ばず。弓すら猶ほ之を失す。何ぞ況んや治に於いてをやと。

【現代語訳】

貞観の初めのころ、唐の第二代皇帝太宗は蕭瑀に向かって、「私は若いころから弓矢を好み、自分ではその妙技を極めることができたと思っていた。最近良弓と思つて弓十数張を手に入れて、それを弓の匠に見せることがあった。その弓を見た匠は、『すべて良い材質ではありません』と言った。私はなぜなのかその理由を尋ねた。匠は、『木の芯がまっすぐでないので、木目もすべて曲がっています。弓そのものは強いのですが、矢を射るとまっすぐ飛ばず当たりません。それゆえ良弓ではありません』と答えた。私はそのときに初めて悟つたのだ。私はかつて弓矢で四方(の群雄)を平定し、弓を用いることが多かつた。それなのに弓の匠の言うところの弓の道理すら会得していなかつたのだ。まして私が天下を保有してまだ日は浅く、政治の考えを会得

らを最も多く含むものを正解とする。

問三 要約問題。ここは、傍線部以下をまとめる。「A猶、況B乎」という抑揚形が二度繰り返されているものを一つにまとめる。

「Aでさえ、ましてBがくなのはなおさらだ」の「Bがく」以下を補うこと。つまり、「若いころから長く携わつた弓の道理さえわからず、見誤つた」(＝A)、まして「天下を保つて日が浅く統治の精神を得ることは弓には及ばないのであるから、政治において見誤るのは当然だ」(＝B)、という二点と合致するものを選ぶ。

問四 「四方」とは、「天下」のこと。

問五 主語は直前の「得為治之意」(統治の精神を得ること)である。一文の中で弓矢と統治のやり方を対比・対照させている(抑揚形については問三参照)。直前を現代語訳することになる。

問六 抑揚形で、空所には、「弓」に及ばないものが入る(問三の解説も参照する)。

【出典】

『貞観政要』「政体第二」第一章の一節。

静岡大学出題・改問。

【要旨】

太宗は、自分では良弓と思つて手に入れたものが、弓の匠によつて理路整然と否定されてしまった。このことから、太宗は弓矢で四方を平定したにもかかわらず弓の良し悪しを誤るのだから、ましてまだ天下を治めて日も浅い自分には政治において誤りがあつて当然だと臣

することは、言うまでもなくまだ弓に及ば(ずできて)ない。(長く携わつた)弓でさえ間違いを犯す。まして(日の浅い)政治においてどうして間違いを犯さないことがあるのか、間違いを犯しても当然だ」と言つた。

【句形の整理——抑揚】

Q1 富貴則親戚畏懼之、貧賤則輕易之。(衆人)。

金持ちになり身分も高くなると親戚の人も敬い恐れ、貧乏になり身分も低くなると軽んじ侮る。まして一般の人の場合はなおさら人の境遇を見て敬い恐れ軽んじ侮る。

Q2 死馬(骨)買之、生者(骨)。

死んだ駿馬(の骨)でさえ高く買ったのだ、まして生きた名馬ならなおさら高く買うだろう。

Q3 臣死(不)避、卮酒(足)辞。

私は死ぬことさえなんとも思わない、まして卮酒(＝大杯の酒)などどうして辞退しましょうか、いや辞退などしません。

Q4 (秦)之威、相如廷叱之、(其)辱、其郡臣。秦王のような威力のあるものでさえも自分(＝蔣相如)はこれを朝廷で叱りつけ、その軍臣を恥じ入らせたのである。